

中山 11

発走 15:45

Table with columns for race numbers (桃8, 14, 13, B11, B10, 9, 8, 7, 青4, B6, 5, 赤3, 4, 3, 2, 白1) and rows for horse names, jockeys, and race details.

Table with columns for horse names, jockeys, and race details, including a section for '馬場が流れは一気に浮上'.

Table with columns for horse names, jockeys, and race details, including a section for '3着・タコイコイスS着の'.

Table with columns for horse names, jockeys, and race details, including a section for '1フレイムコード'.

Table with columns for horse names, jockeys, and race details, including a section for '3連複'.

本紙の見解 連軸はブランネージュ
各馬一長一短で難解だが、中心はブランネージュ。昨年の春から秋にかけて、一線級相手の重賞で...

相本の複連
冬の休養でスランプ脱出
昨年のこの時期に中山千八のフワンシヤッセに活気ある動きが戻った。田辺騎手なら強気に早めのスタートもある。

競馬人情

ボスニア・ヘルツェゴビナのヤブラニツァ出身。バヒド・ハリルホジッチ。そう活字を読みながら、意味はちがうけれども、今週の競馬の「フリーズレビュー」というのも、まだおれには馴染んでいないあななで思ってしまう。

フリーズレRで勝つのはクインズリングだよ。そう信じるワケは簡単。前走の菜の花賞で単勝を買い、中山マイルの大将枠という不利をあさりと克服してくれたシーンに感動しちまって、その感動がよみがえってくるからだ。



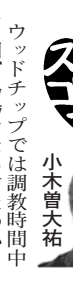
阪神のF・レビューは、75年にテスコガビー(桜花賞は大差の独走)が制したところ、一時期1200mだったのが、ずっと重要なトライアルである。ところが、80年代にマックスビューティ(桜花賞は8馬身差ながら、1600mのOP特別だったチュウリップ賞)桜花賞の日程で大成功しはじめた。94年からチュウリップ賞が重賞になると、エアグルーヴなどが続き現在の桜トリアルF・レビューは、土曜のアネモネS(中山)などと同じようなトリンに変わってきている。先週のチュウリップ賞を制したのは、ココロノアイだった。その3代母は87年の桜花賞マックスビューティである。そのココロノアイの出現に合わせるように、同じ一族のノーブルヴィーナスが、きょうのF・レビューに出走する。ノーブルヴィーナスは、その6代母カクモト(父セントライ

連続の栗東からの長距離輸送をクリアしたというの、かなりの能力の持ち主だと思うワケ。でもまあ、おれの知りあい馬券のうまい人、よく穴を取る人って、「パドックでピンときたんだとか」、「返し馬がバツグンだったよ」とか言うんだ。おれ、パドックを見ていると、返し馬を見ていると、そういうことを50年もやっているのに、ピンとくることなんかないんだよな。

仕方ない。てめえの感動を頼りにするしかない。馬単で⑩②、⑩③、⑩④、⑩⑤、⑩⑥、⑩⑦、⑩⑧、⑩⑨、⑩⑩、中山牝馬Sも、バウンスシャッセのちょうど1年前のフラワーズの他馬と接触があつての1着は、おれのなかで絵になっている。馬単③⑨、③⑩、③⑪、③⑫、③⑬、③⑭、③⑮。

ト)が、幻の馬トキノミノルといこと同土になる。ココロノアイの9代母は、トキノミノルの半姉である。1934年に輸入された芦毛の牝馬タイラッククイン(英)は、一時期名牝系の牝祖となつて多くの活躍馬を送つた。一族の代表馬がトキノミノル(48)であり、菊花賞馬グリーングラスの3代母ダーリング(父セフト)は、トキノミノルの全姉だった。トキノミノル、マックスビューティ、グリーングラス、さらにはフジマドンナ(父シンザン)、現代のブチコと似たような色合いの芦毛馬ゼンマツ、プリマドンナ、カンパリーなど、が牝系を進展させたタイラッククインの一族は、最近はかなり枝が細くなつてきた。久しぶりにこの一族から誕生したココロノアイが桜花賞の有力候補となり、F・レビューでノーブルヴィーナスが③着以内に快走して桜花賞に一緒に出走すると、少し忘れられていた名牝系が復活する。 (柏木)

☆関東所属	騎手	名	成績
①	崎宏典	浦名豊	浦勝田
②	戸北横三	蛟吉田	勝田丸
③	中田	中丸	
④	中丸		
⑤	中丸		
⑥	中丸		
⑦	中丸		
⑧	中丸		
⑨	中丸		
⑩	中丸		



ウッドチップでは調教時間中に2回、馬場をならすためハロー車が入ります。その直後は、良い馬場状態を狙った馬たちの調教が殺到。そんな忙しい時間の中でも、ひと際目立つ動きを見せたのが、⑩Rのバウンスシャッセです。仕掛けるというよりも鞍上が軽く手綱を緩めると、それだけで鋭い反応を見せ、楽々と1馬の動きは圧巻の内容でした。オークス③着後、着順はさえませんが、秋華賞は千通過58秒0の速い流れを自ら捕まえて動く⑦着。差し勢が上位を占める中、しぶとい粘りを見せています。道悪の前走は参考外、フラワーズの勝ち馬が、この中山千八で復活します。

そこにある千四のGⅡ 阪神に外回りコースが設置される前は、芝千四と芝千六はスタート地点が違うだけだった。今は芝千四は内回り、芝千六は外回り。重大な違いがある。桜花賞が外回り千六になった2007年以降、桜花賞馬8頭中6頭はチュウリップ賞(外回り千六)出走馬、フリーズレビュー(内回り千四)に出走し

京都牝馬1-3着馬の成績	年	ウイングレット	年	ウイングレット
17年	ウイングレット	2	17年	ウイングレット
18年	ウイングレット	2	18年	ウイングレット
19年	ウイングレット	2	19年	ウイングレット
20年	ウイングレット	2	20年	ウイングレット
21年	ウイングレット	2	21年	ウイングレット
22年	ウイングレット	2	22年	ウイングレット
23年	ウイングレット	2	23年	ウイングレット
24年	ウイングレット	2	24年	ウイングレット
25年	ウイングレット	2	25年	ウイングレット
26年	ウイングレット	2	26年	ウイングレット



海外ロックバンドに最近ハマった先輩。私も中学時代は洋楽に夢中！深夜のランキン組番組は毎週、欠かさず見たものだ。当然、歌詞は？ノリだけでしたが、ね。中山千八は連勝の舞台。もう決める。

た桜花賞馬は1頭しかない。フリーズレビューを勝ち、桜花賞は⑩着でもオークスを秋華賞を勝ったメイショウマンボもいるが、フリーズレビューは「桜花賞のステップレース」ではなく、「そこにある千四のGⅡ」だと考えたい。何しろ①着賞金はチュウリップ賞3400万に對して50000万だ。ムーニクスプレスは外回り千六の阪神JFでも好走したが父アドマイヤムーンで母は短距離馬。千六より千四向き。桜花賞を見据えてではなく、得意距離(で高賞金)のここ勝負。